

當世をしへ草

凡世の中ふ人々極めて燃ふ虫獸を見ても孝親の教とあると有り去る櫓船をどし鼠の數次第は増して大損失せり時おれ家の主人言けし何卒して此鼠残らず掃除せんと此上何程の損失計難し速く鼠を

計難し速く鼠を
 若者へ
 申付ケ
 其夜はつと一匹
 駈げ主人大に喜ひ

或時東京より横濱へ酒數千樽船は積行と有り船中俄鼠の數ふえて船の食物を喰ひ道具は破付害とあり甚し船頭共大に怒り折を得て獵尽さんと船を横濱に着けし船頭の手段にて船底は硫黄と燃れ煙は堪へ魚所々の穴より逃出す鼠を打殺せし後は残りて一足の鼠其背は親鼠と負ふて小舟の上へ逃出さんとせし船頭小是と異み見れば背は鼠の白き毛有り眼を見んが老鼠を人々此鼠は若き鼠の親船頭とて忽ち慈悲の心を生じ惡き鼠を殺し其親は孝行と盡すと有き故見し二匹とを助け其場を逃しし有り

澤水主人誌



下金板

